国　語 科 学 習 指 導 案

日　　時　１２月６日６校時
指導学級　１年１組
場　　所　１年１組　教室
指導者　　教諭　石丸　真由美

１　単　元　　「少年の日の思い出」の解説書を作ろう

２　単元について

(1)　生徒観

生徒はこれまでに、「飛べかもめ」の授業において、描写表現について学び、描写表現を手掛かりに心情を考える方法を学んでいる。また、「さんちき」の授業においても、同様に描写表現を手掛かりに心情を読み深めることや、物語の主題について考えることを学んだ。しかし、生徒の中には、本文中に根拠を求めず、感覚的な読み方をしてしまう生徒がいる。

(2)　教材観

文学作品を読み深めるうえでは、単に明示的に書かれた言葉の意味を正確に捉えるだけでなく、暗示的な表現を解釈したり、表現されていることから想像を膨らませたり、ある表現を別の表現との間を結ぶ隠れた文脈を見出したりといった読み方が必要になる。そうした深い読みの力を育てるのに適した教材である。

本教材は、現在と回想の二つの部分から構成されている。回想場面での無駄のない心理や行動の描写の連続は、読み手をひきつける力を持っている。

(3)　指導観

本教材は、回想場面での無駄のない心理や行動の描写の連続は、読み手をひきつける力を持っている。少年時代の熱情と高揚感、また、その熱情ゆえに盗みという罪を犯してしまった主人公の心の痛みを作品の展開から読み取ることを通して、最後の場面で大切なチョウを粉々に押しつぶしてしまうことの意味に迫らせたい。

現在の場面には、回想場面との密接なつながりを示す伏線がいくつか設けられている。その点に着目することで、構成の工夫についても考えを深めさせたい。

３　単元の指導目標

(1)　事象や行為、心情を表す語句を話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。（１）ウ

(2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。
C（１）イ

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。C（１）エ

(3) 表現とその効果に関心をもち、人物描写や情景描写に注目して、人物の心情を読み取ろうとする。

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事象や行為、心情を表す語句を話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ウ	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情保変化などについて、描写を基に捉えることができる。Ｃ（１）イ ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。Ｃ（１）エ	・表現とその効果に関心をもち、人物描写や情景描写に注目して、人物の心情を読み取ろうとしている。

5　単元の指導計画（全６時間）

時間	主な学習活動	評価基準
1	全文を通読し、疑問に思うポイントを整理する。	・疑問に思うポイントを、根拠を示しながら挙げることができている。
2	語句の意味や登場人物について整理する。	・問いを吟味し、探究したいテーマを決定することができる。
3 （本時）	グループで対話をする中で、問いの答えになる部分を整理する。	・本文中の表現を根拠に問いの答えになりそうな表現を見つけることができる。
4	問いとその答えをパワーポイントに整理する。	・クラスメイトにわかりやすいような発表資料を作成することができる。
5	パワーポイントを仕上げて、発表の準備をする。	・作成した資料を用いて相手に伝わりやすい説明をすることができる。
6	他のグループの発表を聞き、作品の読みを深める。	・自分たちが取り組んだ以外の課題についても考えを深めることができる。

6　本時の授業

(1)　本時の目標

問いに対する答えを導くための表現を探し、対話の中で答えの手がかりを見つけることができる。

(2)　本時の評価規準

対話を通して、問いの答えに関係する表現を探し、吟味することができる。

(3)　本時の展開

段階	学習活動・内容 対話的な活動	形態	○教師の支援 ◆ICTの利活用による支援 ※評価の観点と方法
導入	1　前時の振り返りを行い、各グループの問いについて確認する。	斉	○　自分のグループの問いを確認し、該当のページにマーキングする。
	2　めあてと、本時の流れを確認し、見通しをもつ。	斉	○　ホワイトボードを用いて本時の流れを示す。
	めあて　問いに対する答えを導くための表現を探し、対話の中で答えの手がかりを見つけよう。		
展開	3　問いの答えになりそうな箇所をワークシートに書き出す。	個	○　個人で考える時間をとり、本文をしっかりと読ませることで、本文を読み込ませるようにする。
	4　グループで、着目した箇所や仮説を発表し、議論する。	G	○　根拠になった本文の箇所を示すようにさせる。 ○　どうしてそのように考えるかを質問し合いながら根拠になるところを挙げるようにさせる。
	5　対話の中で気が付いたことを自分のワークシートに整理する。	個	○　対話の中で気がついたことをワークシートに記入し、思考を整理させる。 ○　問いに対する答えになっているかを吟味させる。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。【思考・判断・表現】（ワークシート） 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導 根拠となる部分を示し、関連付けて考えることができるように支援する。 「おおむね満足できる」状況（B） 本文の中から根拠を見つけて、同じグループの友だちに説明することができる。

まとめ	振り返り　班で協力し、対話の中で問いの答えになりそうな箇所を見つけ、吟味することができたか。		
	6　学習を振り返って、次時の見通しをもつ	斉	○　振り返りシートに、めあてに対する振り返りを記入し、次時の見通しをもつ。 ◆次回からパワーポイントを用いてプレゼンテーション資料を作成することを伝える。